

KTK いつみ福祉会を 守る会だより

2018. 春 NO.53



児童デイサービス

もちつき大会！！



和束町社会福祉協議会 会長 吉田輝雄

今年の冬は猛烈な寒さで、特に北陸では雪で動けなくなった車が1500台、京都南部の私たちには想像を絶するものでした。遭遇された皆様方が一日も早く、平常時の生活に復帰くださることを願わずには、いられない日々でした。ご一同様には、ますますご壮健のことと存じます。

平素は、いつみ福祉会に格別のご支援とご協力を賜り、感謝申し上げます。いつみ福祉会では京都府の南部山城地域の障害者施設として、またこの地域の障害者福祉向上の総合センターとして、幅広い事業に取り組んでおられることに感謝いたします。

さて、一昨年の障害者施設でおこった事件は、まだ記憶に新しいところです。また小さい子どもや学生への虐待、いじめ等の事件が、日々、聞かれます。虐待やいじめを受けられた方々の気持ちは測りき

れないくらい、また耐え難いものであったことと思います。このような事件がなくなり、誰もが安心して暮らせる地域福祉を皆さんとともに目指していきたいと思っております。皆様の温かいご理解とご協力をより一層賜りますようお願い申し上げます。

いつみ福祉会では『「生きることのすばらしさ、生きぬくことの大切さ」を基本に障害のある人たちが地域社会で普通の暮らしができるようサポートします。』との思いで障害のある方たちに接していただいております。これからも引き続き地域に根差した障害者施設として取り組んでいただきますよう、お願い申し上げます。

皆様方も、いつみ福祉会への一層のご支援をお願い申し上げます。

1月27日 人権擁護研修会を開催しました



いづみ福祉会で職員対象の第4回目となる人権擁護研修を行いました。

津久井やまゆり事件から1年半が過ぎました。

あの事件の背景には、パーソン論や優性思想などが存在します。昨年からは障害のある方々に対しての強制的な不妊手術の問題が大きく取り上げられています。このことも「障害=不幸」の思想の現れであることは明白でしょう。

昨年度のこの研修会は、彼を後押しした「背景」を皆さんと一緒に考える機会を持ちました。そして、今年度は、糸賀一雄氏の理念と実践を振り返ることで、障害者福祉の担い手／ソーシャルワーカーとしての私たちの原点や実践の方向を考え、支援者としてのあるべき姿を考える機会を持ちました。

「この子らを世の光に～糸賀一雄～」

糸賀先生の理念や哲学・人間学をNHK番組「ラストメッセージ・この子たちを世の光に～糸賀一雄～」のDVDで学んだ後、糸賀思想の研究者であり、また障害者支援施設「かりいほ」理事／日本社会福祉事業大学の富永健一郎先生の講演を聴き、さらに認識を深めました。

(かりいほ：強盗や放火等の重い罪を犯した障害者を積極的に受け入れる数少ない入所施設)

富永先生は糸賀思想をこのように語られました。

■それまでの障害児・者への施策や意識は「この子らに世の光を」というものであり、「不幸な障害児・者に光を当てて救ってあげよう」という恩恵的で強者の理論で成り立っていました。

■糸賀先生は「を」と「に」を入れ替えることで、それまでの障害児・者への見方＝人間観＝を180度変えました。彼らは光を当てられる存在ではなく、自前でちゃんと光り輝いている存在です。しかし、その光は目立たないし、その光は見ようとしなければ見えません。

(右上へ)

■その光を消してしまう社会の価値観や見ようとししない人間の無意識や無関心がこの問題を重く、深いものになっています。私たちの仕事はそれらとの長い戦いでもあります。

■どんなに重い障害があっても、人間には発達し自己実現に向かおうとする意思があり、その権利を持っています。私たちはその権利を保障する義務を負っています。

■彼【女】らの「発達」が保障されるためには、私たち一人ひとりが「この子たち」と深くかかわりあい共感を結びあう関係が必要です。そのような関係性を私たちや社会は持っているのでしょうか。

■この問題にみなさんはこの仕事を通じて気がつかれています。気がつかれたあなたには、そのことに対して積極的にかかわり世の中を変えていく責任が生じているのです。

「自覚者は責任者である～糸賀一雄～」

この研修で私たちは、「人間は関係的存在である。光はそこにある」ということ。そして「自分の実践をことばにする。そのことばを実践していく」ことの重要性を学びました。

法人外からご参加いただいた方々、貴重なお話を頂いた富永先生に再度お礼を申し上げて、まともに代えさせていただきます。ありがとうございました。(須河)



【研修後のアンケート内容】

- ご利用者との共感的な関係性があるからこそ光が見え、そこに尊厳があるのだとわかった。
- 「あせらないこと。関係性が育つには時間がかかるのです。」や「一生懸命仕事をするとかかかわることには失敗も含まれます。」という言葉に励まされた。
- 今の私の仕事は糸賀さんたちのおかげなんだと感じた。今の私の仕事は次の世代の礎になるのか？…大きな宿題をもらった気がする。
- 知ってしまった！！どうしよう！！（笑）
- 人間の縦の発達・横の発達という考え方、社会の横の発達とはなんだろうかと考えた。
- 光を見つけることはストレンクス探して、光はご本人のニーズでもあるのだとわかった。



まずは自分の意見をまとめて…

個人ワークの時間



グループワーク後のまとめ

…私たちの仕事の意味は？

当日の参加者は97名。いづみ福祉会の職員が75名、外部からも22名の参加をいただきました。外部参加は他の障害福祉事業所の職員、行政の方などです。

- 糸賀先生たちの使命感はドコから生まれたのか？もっと知りたくなった。
- 「1等星が強く光って見えるのは距離が近いから。6等星の光は弱い光に見える。でも、それは心の距離があるからかな。6等星でも近くに行けば強く光っているはず～」という手塚治虫さんのことばを思い出しました。
- グループワークは他者の違う意見を認める人権研修そのものの場だ。
- 私は自分の光に相手を巻き込んでいないだろうか。
- 社会との戦い方をもっと知りたい。
- 「差別してしまう心はなくなる」と聞いてちょっとショック。でもそれを差別に繋がらないようにコントロールすること～自分の心を知ること～が大切だとわかった。

糸賀一雄さんとは…

戦後の混乱期にあった昭和21年に滋賀県で知的障害児等の入所・教育・医療を行う「近江学園」を創設。以来あらゆる困苦と戦いながら、西日本で最初の重症心身障害児施設を設立するなど、次々と障害児者の課題に取り組み、「知的障害者福祉の父」と呼ばれた方です。人間の新しい価値観の創造を目指した人権尊重の福祉の取り組みを展開し、その精神は、現在もなお多くの福祉関係者に受け継がれています。「この子らを世の光に」という糸賀先生のお言葉は今も私たちの仕事の道しるべです。





「ルーエッセイ」

～いつみ設立
30周年に向けて～

いつみ☆みらいプロジェクト

今回は第4ステージとして、2014年度からスタートした『いつみ☆みらいプロジェクト』の取り組みをご紹介します。

『いつみ☆みらいプロジェクト』は地域のニーズにあわせて、増えてきたいつみの事業を将来にわたって障害のある方々が安心して暮らし続けられるように、より安定した支援体制を確立することを目指した取り組みです。『機能分化』と『連携』をキーワードに自分たちの事業を整理し、見直しをしました。

連携のとれた支援のなかで、より安心できる暮らしを！

● 支援体制の充実

・第1いつみ荘の開所

3階建てで長い階段を上らないといけない旧第1いつみ荘。ご利用者の高齢化でだんだんと危険な状況となってきました。より安心して生活していただけるように第1いつみ荘を新築しました。併せて、以前よりあった第2いつみ荘は男性、第1いつみ荘は女性の住まいということで機能分化をしました。

・ワーキングサポートちくたくの開所

精神障害や高次脳機能障害の中途障害の方に合わせた働く場として、「就労継続B型」事業所を加茂支所3階に開所しました。働くことを通じて、社会参加や就労への第一歩としていただける場を目指した開所です。

● 機能分化の実施

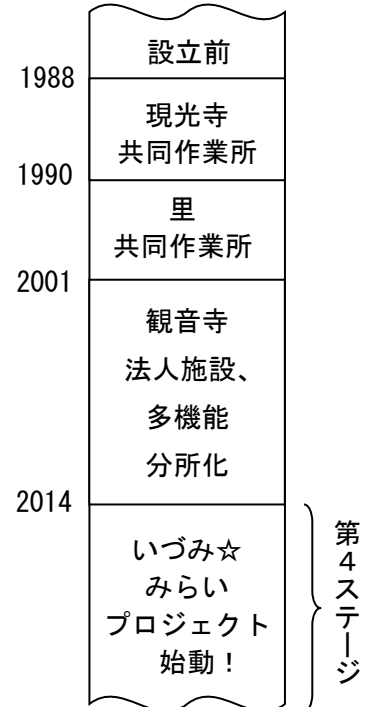
・地域活動支援センターの移転

今まで観音寺本館にワーキングセンターと併設していた地域活動支援センターを加茂支所3階に移転しました。駅からもより近くなり、利用していただきやすい環境となりました。新たに開所した「ちくたく」と併設することで、より連携した支援を行うことを目指した機能分化です。

・ワーキングセンターの作業班体制の見直し

ご利用者が60名を超え館内も過密化し、ご利用者の高齢化・重度化も顕著になってきました。過密化を解消するために、地域活動支援センターの移転後のスペースを利用し、高齢グループ（カラフル班）を新たに作りました。合わせて、少人数のグループ（ガンバ班）も新たにスタートし、ワーキングセンター内での機能分化に取り組みました。

事業所ごとの機能を明確にし、より連携しやすい形をつくっていくことで、ご利用者の暮らしやすさにつなげていくことを今後も目指していきます。来年度は30周年…。地域での生活を支え続けるために、いつみができることをこれからも模索していきます。 (土井)



ちなみに…
二〇一四年
消費税8%に。
あへのハルカス
完成。





山城南圏域の現状と課題

山城南圏域障害者総合相談支援センター
ゼネラルケアマネジャー 傍島 規子
(社会福祉法人 相楽福祉会)

山城南圏域(木津川市、和束町、笠置町、精華町、南山城村)は人口約12万人。圏域内で一番人口の多い木津川市では、新しい住宅地開発が進んでおり子育て世代の人口増加が見込まれています。一方で東部三町村は過疎地域となっており、高齢化率40%を超えています。

このような状況で、圏域として共通課題を見出すことの難しさがあります。

障害福祉に関する社会資源の不足が圏域課題としてありますが、ここ2、3年は放課後等デイサービスの事業所が府外から参入をしてきており、学齢期のサービスに関しては充実しつつあるように見えます。

ただ、障害程度や種別で見ていくと医療的ケアを必要とする子どもさんや、車いすなど身体に障害のある子どもさんたちが利用しやすい放課後の居場所は足りていません。

放課後、毎日のようにサービス利用をし始めている子どもたちの卒業後の進路では、生活介護事業所が足りておらず、奈良や他圏域の事業所利用を利用されている方たちもおられます。

圏域内で不足している資源は、その他にもグループホーム、短期入所、日中一時支援、移動支援…。

『障害の重度化・高齢化や「親亡きあと」を見据えた相談、体験の機会、緊急拠点』も、遅ればせながら検討を始めていますが、資源・人材が不足している中で、どう進められるのか難しい課題です。

圏域内市町村行政では今年度、地域生活支援事業と呼ばれる市町村事業の日中一時支援、移動支援に関して、制度運用と報酬の見直しがありました。ご利用者、事業所ともに使いにくい仕組みとなり、報酬は下がったことから、日中一時支援、移動支援に関しては、新規事業所の参入は今後ないと思われれます。

「障害があってもなくても暮らしやすい地域にするために」「住み慣れた地域での生活の継続」を実現できるよう、圏域内の事業所の方々とともに動いていますが、人材確保の問題、予算的な問題などから思うように進まない現状があります。

課題山積みで、明るい展望が見えてきませんが、ご利用者さん、ご家族、行政、各機関と連携しながら一緒に動き、考えられる地域になるよう努力していきたいと思っています。





サービスセンター

～『冬のまつり』に参加しました～

1月20日(土)、木津川市社協南茂台支部が催された『冬のまつり』に参加しました。子どもみこし、ゲームや抽選会、おいしい食べ物を心ゆくまで楽しみました☆お世話になった方々、地域の皆様、ステキなお時間をありがとうございました！！(三船)



ワーキングセンター

～クラフト班～

恒例の草木染め販売会を開催します！是非、お越しください！！

6月1日(金)～11日(月)

- ・場所：奈良町物語館
- ・時間：10時～17時



児童デイサービス

～募集中～

現在児童デイサービスでは春休みの活動に向けて準備をしています。

子ども達と一緒に遊んだり、活動をしていただけるボランティアさんを募集しています！

どうぞお気軽に遊びに来てください。



～譲ってください～

掃除機・子ども用CD

子ども用自転車・ラジカセ



ちくたく

～手作り料理で新年会～



ちくたくでは、今年1月5日に開所以来初めての新年会を行いました！

みんなで決めたメニュー(鍋・ちらし寿司・から揚げ・ウィンナー・ポテト)を調理室で作り、みんなで食べ、ジュースで乾杯することができました。みなさん料理がとても上手で、手際もよく、お鍋の味付けもばっちり！！ちらし寿司の錦糸卵はプロ級でした！！

ランチルームに移動して会食。調理中の真剣さとはうってかわって和気あいあいでした。宴もたけなわになったところで、今年の抱負を語りました。熱い思いでちくたくに来られていることが伝わってきました。また、ご利用者からも「よい新年会だった！」「楽しかった。またやりたい！」というお声をいただきました。毎年恒例の新年会にしていきたいです！

(松村)



子供たちの笑顔が見られるように

一心堂 塚田 高司

昨今、子供たちが走り回って遊ぶ姿を見かけなくなった寂しい公園を活気ある場所にと思い、始めた紙芝居活動も早13年になります。

当初、寄り付いてもくれなかった子供たちも今では“たかっちゃんの紙芝居”として大人気となり、毎日子供たちと紙芝居を通じて対話を楽しんでおり、紙芝居のある公園はいきいきしています。

紙芝居には子供たちの楽しみのすべてが詰まっています。待つ、群れる、見る、買う、食べるという5つの楽しみ、これがあれば子供たちは大満足するのです。

3年前、いづみデイサービスにも職員の方を通じて訪問する機会を与えていただきました。最初は、紙芝居を楽しんでいるのか、紙芝居の実演に集中できない難しさもあり、戸惑いました。でも、訪問を重ねるにつれ、喜んでくれている様子が見えてきて、私の訪問を楽しみに待っていてくれるんだと感じるようになりました。すると、こちらもみんなが喜んでくれるにはどのように語ればよいのかを試行錯誤しながら行っています。これからも子供たちの笑顔を見れることを自分の課題として頑張っていきたいと思っております。

子供たちの期待にどれだけ応えられるか分かりませんが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



いづみ家族会・懇親会のご報告

いづみ家族会 國本素子

今年度、懇談会によりたくさんの方に参加していただけるよう、三地域で、日程、曜日、内容を変えて、参加する方の都合や興味に合うものを複数選んでいく参加方法を実施しました。また、ご夫婦の参加も大歓迎！！

1月26日（金）南山城村道の駅近くのガーデンカフェ・ミームという山小屋風のレストランで、8名がイタリアンを食べながら、家族の事、障がいの事、女子トークで日頃の鬱憤を発散しました。素敵なお庭があるそうで、次は暖かい季節に行ってみたいです。

2月5日（月）木津川市の薬膳レストランあわさいで、12名が相談支援センター長の須河さんを囲んで、食事をしながら、木津川市の福祉施策の変更（日中一時支援・移動支援の単価の切り下げ、同一法人での利用ができない等）とそれに伴った影響（法人にシワ寄せが来ていたり、制度を使いづらくなっていることなど）を勉強しました。また、参加者のお一人が今の取り組み（息子さんの一人暮らしに向けての5ヵ年計画と、実際一人暮らしをしてみた時の気苦労と、今現在はそれらを乗り越え週3日は一人暮らしをしていること）を知ることができました。

2月15日（木）南加茂台の「カフェすまいる」に4名が食事とお喋り、その後カラオケを楽しみました。少ない人数でしたが、気分転換となり、定期的にこのような集いが持てるといいなと感じました。

これで今年度の行事は終了します。ご協力ありがとうございました。

来年度は新しい役員が、いづみ福祉会を盛り上げて行くような取り組みを計画すると思っておりますので、より一層のご支援をお願い致します。



会費納入にご協力下さい！！

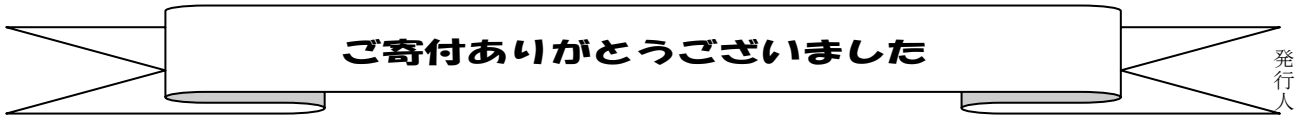


2017年度の会費納入をお願いします。同封の振込用紙をご利用ください。個人会費は一口1,000円、団体（法人）会費は一口3,000円です。法人の窓口を持って来ていただくことも大歓迎です。

（2017年12月22日～2018年2月23日受付分）
会費納入をいただいた方々です。（敬称略、順不同）

東敦子	新谷恭子	株式会社 相楽清掃	西山幸千子
大音正明	吉田和文	坂口冒通・賀世	濃澤昌子
安田暎胤	吉岡菊子	小林文代	黒川嘉代子
松岡佳代	洞正子	山口泰司	澤田康子
大倉博	小松泰子	藤村富美子	

*郵便局からの情報が届くまでに時間がかかり、この期間にお振込みをいただいたにもかかわらず、お名前を掲載できていない方がおられる可能性があります。ご迷惑をおかけし、申し訳ありません。



いづみ福祉会および守る会に多くの方々からご寄付をいただきました。ありがとうございます。

（2017年12月27日～2018年2月28日受付分）

お名前をご紹介します、お礼に代えさせていただきます。（順不同）

馬場久代様 ・ 山田多賀子様 ・ 荒川智行様 ・ 山際久江様 ・ 村上智乃様 ・ 北畠様
 恭仁小学校様 ・ 土井知恵様 ・ 石崎敬子様 ・ 今西邦雄様 ・ 川畑かおり様 ・ 森川ひろみ様
 柳原様 ・ 村上様 ・ 馬場文子様 ・ 上野元美様 ・ 大久保寿行様 ・ 平井充様 ・ 樋垣電気店様
 青山信一様 ・ 安藤貞子様 ・ 阪田真有様 ・ 大倉博様 ・ 木津川市地区更生保護女性会様
 小出耕資様

現金、茶碗、切手、お菓子、雑巾、スティックコーヒー、タオル、湯呑み、茶碗、野菜（大根）、みかん、ゆず、もち米、ブルーチップ、ギフト券、ミシン糸、ティッシュ、ファイバークロス、クリープ、雑誌、手袋、ひざ掛け、ハンカチ、ポーチ、水筒、ほうき

ご寄付いただいたものは、有効に活用させていただいております。厚くお礼申し上げます。

また、ご家庭に不要なタオル、掃除機、アイロン、扇風機、食洗器、粉石鹸、マグカップ、お湯呑み、お茶碗、雑巾がありましたら、よろしくお願ひします。

編集 いづみ福祉会を守る会

〒619-1143

連絡先 社会福祉法人 いづみ福祉会 内

京都府木津川市加茂町観音寺石部8番地

《 編集委員 》

TEL : 0774-76-7210 FAX : 0774-76-0070

ボランティア団体 : 西嶋 いづみ家族会 : 國本

URL : <http://www.idumi-fukushikai.or.jp>

法人職員 : 大久保、石崎、馬場栄、松村、丸岡伸

1992年6月5日第三種郵便物認可(毎月1回25日発行)
2017年11月1日発行
発行人 KTK増刊通巻第4652号

発行所

京都障害者団体定期刊行物協会
高谷修 〒602-1814-3

京都市上京区猪熊通丸太町下ル中ノ町519

頒価1000円

会員の購読料は、会費に含まれていません。京都社会福祉会館4階 京都難病連内